

令和 4 年（2022 年）8 月 25 日（木）

教育局学び推進課

むすびつくば協働事業の事業主体による自己評価

1 実施目的

令和 2 年 10 月から令和 4 年 3 月まで民間事業者との協働事業として実施した公設の不登校児童生徒学習支援施設「むすびつくば」について、各事業主体が、それぞれの視点で事業を評価し、協働事業の検証材料とする。

2 自己評価内容

(1) 評価対象期間 令和 2 年（2020 年）10 月 1 日～令和 4 年（2022 年）3 月 31 日

(2) 評価方法 各事業主体が、協働事業の仕様書に基づいた事業の遂行状況について自己評価を行うとともに、事業の成果、課題等を確認する。

(3) 評価の基準 事業における実施項目ごとに、達成度を 5 段階で評価する。

3 自己評価結果

(1) 特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所による自己評価 P1～P14

(2) つくば市による自己評価 P15～P16

協働実証事業 事業者自己評価シート

事業名 つくば市不登校児童生徒学習支援事業

事業(評価対象)期間 令和2年(2020年)10月1日から令和4年(2022年)3月31日

記載団体 認定特定非営利活動法人 リヴォルヴ学校教育研究所

※ 評価点(5段階)の基準

5点:十分に達成できた 4点:概ね達成できた
 3点:達成できた部分もあるが、課題も多く残った
 2点:一部達成できたが、さらなる取り組みを要する 1点:達成できなかった

1 公民協働の観点から

① つくば市と事業者で事業の目的は共有できたか

1

目的を共有するところから事業が始まるものと認識していたが、教育局と協議をする機会がないままに目的を提示された。当方から提案もしたが、それについて回答はなく、話し合いの場がもたれることもなかった。

② つくば市と事業者の役割分担は適切にできたか

2

事業開始の準備段階では、双方が手探りながらも役割を分担し環境整備にあたったが、その後については、仕様書にも教育局の役割分担が明示されていなかった。「役割分担」についても、協議の時間をもちたかった。子どもたちの出席状況、不審者情報なども含め、学校との連携について教育委員会の協力を得られればもう少しスムーズに進められたのではないかと感じる。

③ 意思の疎通が図られたか

3

意思疎通の機会があったが、話し合われたことが具体的に課題解決・改善までには至らなかった。確認したことが相談なく変更となることがあった。教育相談センター(つくしの広場)の担当者とは各一度ずつ相互を訪問する機会があったが、事業の目的などについて共通理解は十分でなかったと思える。教室の様子を見ていただく機会もなく、保護者の声を聞く機会も設けられなかった。

④ 対等であることを理解し、良好で持続可能な関係を築き事業を実施できたか

1

協働実証事業として始まったはずであったが、そもそも協働という認識に乏しかったように感じられた。①②でも触れたように事業の目的や役割分担が協議される機会がもたれなかったこと、また、振り返りが行われることもなく2022年度の仕様書が作成されるなどしたこと、良好で継続的な関係は築けていなかったと感じる。

⑤ 市民サービスの向上が果たせたか。また、相乗効果・波及効果が得られたか

3

より多くの児童生徒が、より少ない負担で学びと育ちの機会を得ることができた点においてサービスの向上ができた。一方、定員を超えて希望者が集まったことから、入所まで長く待っていただく事態にもなった。

新たな支援方法に関して、研修機会や教材・指導方法のフィードバックを提案したが回答がないままに終わっているなど学校教育の現場や関係機関との相乗効果や波及効果までには至っていない。

2 事業実施概況

① スタッフ間で事業の目的・目標を共有できていたか

4

スタッフ間では日々の打ち合わせや振り返りを重ね、目的・目標を大方確認、共有できていた。

② スケジュール通りに実施できたか

5

コロナ禍の影響により体験活動の機会を一部見送るなどしたことを除けば、スケジュール通りに開所できた。臨時休業中には、オンライン教室を開くなど工夫した。

③ 実施にあたり事業費積算は妥当だったか

1

事業開始にあたって、2020年度は備品費が積算されていなかった。教科学習支援にあたるスタッフは教職員免許保持者であることといった説明もあったが、それにふさわしい人件費が積算されていたとは思えない。仕様書には相談業務が記載されているにもかかわらず、そのための経費は確保できなかったという説明でもあった。事業規模から考えれば事務員の配置も必須と考えるが、それらについてはまったく考慮されていなかった。

④ 運営体制を整えることができたか

3

常勤スタッフもいれば、週1日勤務のスタッフもいる中で、仕事の分担、連絡調整も難しく、事務スタッフを配置できないなども非常に厳しい状況だったが、同一地域内で活動する団体や個人の協力も得ながら何とか体制を整えることができた。

⑤ 受益者（市民）の満足度は十分に図られたか

5

2021年末、2022年初の個別面談では、特に改善点を指摘する声もなく、この度、外部の専門家に協力を依頼した聞き取り調査からも満足度の高さがうかがえた。

3 仕様書・事業内容に示された項目について

① 学習支援活動は適切に実施できたか

5

活動全体を通して、広い意味での学びを計画的にサポートできた。

子どもたち一人一人の希望や到達度に寄り添い、苦手意識が強く、いわゆる教科学習には拒否反応を示す児童生徒には、読み聞かせや遊びの中での学びの時間を設けるなどした。

コロナ禍で体験的な学びの機会は制限を受けたが、絵画造形の時間などでの自己表現活動やスポーツの時間などで力を合わせる経験などを通して、全人格的な成長を支えることができた。

② 新たな支援方法を構築できたか

5

読み書きに特異な困難を示す児童生徒が複数在籍したが、教科学習に際しては、独自に開発した教材を活用するなどして、苦手を補う工夫とともに得意を伸ばすことに努めた。特に書くことに拒否反応を示す子には、ICT機器を活用するなどして、成果をあげることができた。

『勉強にはいろんなやり方があるって、（略）「書いて覚えなくてもいいんだよ」（略）「人それぞれ、自分1人1人に合う勉強の仕方があるって、その勉強の仕方であればいいんだよ」って言われたのがすごく救いだった』などの声もあった。

③ 安心して過ごせる環境を創出できたか 5

備品の配置も子ども目線であることを心がけ、子どもたちと話し合いながら環境づくりをしてきた。また、1人ひとりの個性をポジティブにとらえ、一人ひとりの心に寄り添うように努めた結果、子どもたちや保護者を対象におこなったヒアリング調査でも「先生たちがちゃんと話聞いてくれるので（略）、言えないことをちょっとずつ言えるようになった」「ここでは 子供はどう考えているんだろうみたいな感じのことをまず考えてくださるので、子供はすごく安心感があると思う」「子供の安心安全を1番に考えてくださるので（略）、1人1人のこの子にとっての安全はこれ、この子にとっての安全はこれって先生方がすごく詳しく見てくださってるので、その子供の安心安全を守るっていうことを最優先にするっていうのを継続してもらいたい」などの声が多数寄せられた。音や光に敏感さを訴えていた子も普段通り過ごす様子が見られた。

④ 教育相談は適切に実施できたか 5

保護者を対象とした教育相談は、つくば子どもと教育相談センターに協力いただき、実施した。好評を得ており、予約も早々に埋まるようになってきている。スタッフとのコミュニケーションを重ねること、子どもたちの支援に生かすこともできた。

⑤ 学び推進課、教育相談センターおよび在籍校との連携はできたか 2

所属校には毎月、出席日数、活動状況を報告した。子どもの様子で共有したい事項があるときに、なかなか電話がつかないことが多かったが、一部、担任の先生がむすびつくばを直に訪れコミュニケーションを重ねた学校では、児童の言動に大きな成長が見られたケースもあった。

⑥ 安全管理は適切であったか 3

スタッフ研修にも救命救急講習などを取り入れ、室内の清掃、消毒にも注意を払った結果、新型コロナウイルス等の集団感染を防ぐことができた。しかし慣れからくる気のゆるみから、換気を忘れてしまうこともあった。また、防犯用具の準備も十分にできていなかった。医療個票で子どもたちの健康状況を把握したり緊急時の連絡先を確認するなどしたが、不審者情報等の共有も含め、在籍校との連携が課題として残った。校医も依頼できていない。

⑦ スタッフの研修の機会を確保できたか 5

毎朝、毎夕、子どもたちの言動を振り返り、その時々スタッフの対応を互いにアセスメントすることで、ひとりよがりや思い込みによる善意の押しつけにならないように努めた。また、非常勤のスタッフも含めて、毎月、原則第3水曜日には全員が顔を合わせてのミーティングを持ち、そのうち2か月に1回は研修の機会を持った。限られた予算と時間の中で、外部講師を招いての研修以外に他団体が主催する研修会にも参加した。

⑧ 期限までに書類の提出はできたか、また、手続きで改善すべき点はあったか 3

書類はあらかじめ期限内に提出できたが、定員が当初の15名から40名に増えたこともあり、事務の負担が大きかった。押印の省略、電子化など改善を要する部分もあった。

4 その他

- ・現在地は駅から近いという利点はあるが、水場、音響などで課題がある。受け入れ人数が増え、さらに子どもたちが元気を取り戻すにつれ、音に敏感な子からは、「教室が賑やかすぎる。もっと広いほうが良い」という声も上がるようになってきている。
- ・屋外に植物を育てたり、体を動かすなどできる場所がないために、室内で過ごす時間が長くなった。
- ・仕様書には「個別指導計画（IEP）の立案」が記載されているが、子どもたちやその保護者、さらに学級担任との相談も機会を設けることが難しかった。SCやSSWなどの専門スタッフの配置を希望する。
- ・学校のあり方も含め、市全体としての子育て支援計画を共有したい。

令和2・3年度むすびつくば事業 自己評価付属資料「子どもヒアリング調査」

<目的>

認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所による「むすびつくば」は、つくば市との「協働実証事業」として令和2年10月より開設されたが、当事者の声が反映された事業評価が実施されていないことが課題となっていた。

本ヒアリング調査では、むすびつくばの良いところ、改善点等をヒアリングしながら、子どもたちが感じているむすびつくばの実態、ニーズの把握に努めることを目的とする。

<方法>

日程：令和4年6月27日(月)～令和4年7月1日(金) 各15分～30分程度

対象：令和2・3年度にむすびつくばに通っていた児童生徒10名

場所：むすびつくば教室

インタビュアー：子どもたちが指名したスタッフ

インタビューー：

協力者	令和4(2022)年度状況	むすびつくば利用歴	
		2020年度	2021年度
Iさん	私立大学2年生男子 ※卒所生	高3	-
Jさん	通信制高校2年生男子 ※卒所生	中3	-
Kさん	公立高校2年生女子 ※卒所生	中3	-
Lさん	月木コース週2日女子 学習スペース利用	中1	中2
Mさん	月木コース週2日女子 学習スペース利用	中1	中2
Nさん	火金コース週2日女子 フリースペース利用	中1	中2
Oさん	月木コース週2日男子 学習スペース利用	中1	中2
Pさん	火金コース週2日男子 学習スペース利用	小6	中1
Qさん	火金コース週2日女子 フリースペース利用	小6	中1
Rさん	月木コース週2日男子 フリースペース利用	小5	小6

■ヒアリング項目

- 1, むすびつくば では、良い時間を過ごせていましたか？(過ごせていますか？)
- 2, むすびつくば のどんなところが好きですか？
- 3, むすびつくば がもっとこんな風だったらいいのと思うことはありますか？
- 4, その他、伝えておきたいことがあれば教えてください。

子どもヒアリング調査の結果まとめ

文責：認定特定非営利活動法人リヴォルヴ学校教育研究所

子どもヒアリング調査の結果を、子どもたちが使った言葉を残しつつ、以下の諸観点から整理した。

(1) スタッフとの関係性

- ・ (スタッフとも子ども同士でも) 上下関係がない。でも、なさ過ぎる訳でもない。
- ・ 自分の話をよく聞いてくれる。その意見が反映されることもまあまあある。
- ・ 気を使わないで話せる。
- ・ 先生たちがちゃんと話聞いてくれる。そのまま話聞いてくれるので、言えないことを、ちょっとずつ言えるようになった。
- ・ スタッフミーティングはあるけど職員室はない、壁がないのが良い。
- ・ 先生たちがほんわかしてて優しい人ばかりで、授業で間違えても怒らない。それがすごい自分にとっては嬉しい。
- ・ 悪い意味じゃなくて、いい感じで、ぶっちゃけてる。いろいろ言える環境がある。
- ・ 最初は一人のスタッフとしか喋らなかったけど、今は(スタッフとも子ども同士でも)いろいろな人とずっと喋るようになった。

(2) 学びと育ちのサポートに関連して

- ・ 勉強に抵抗は感じなかったけど不安は強くあって、行ったら最初に、どの教科でも「どこから始める？」と聞かれたのが驚きだった。
- ・ 勉強を丁寧に教えてくれる。
- ・ 勉強がきらいで、すごく辛かった。だからやんなかったのに、やらないとなんかまた辛い。やらないならやらないで自己嫌悪になるし、やるならやるで辛いし、自分はどうすればいいんだって思ってた。おすびつくばに来て、勉強することが辛くなくなったし、やってて安心する。自分が頑張ってる、できたと思える。
- ・ 時間割の枠はある程度あるが、勉強の中でも自由さ、気楽さがあった。戻ってやったり、試しにやってみようということ微分積分をやったり、やりたいということが出来るのも良かった。今はこれをやるべきだからそれはやれないということはなかったのが良かった。
- ・ テストがないところが良い。本質的なところで「●●がわかるようになった」「できるようになった」というように、勉強を頑張っている自分を感じられた。
- ・ (その日の体調などによって) 学習も言えばちゃんと休めるし、学習の内容や量を調整してくれるのでやりやすい。
- ・ 「義務教育」(という言葉) に縛られて「必ず授業受けなきゃいけない」とか「絶対それをやらなきゃいけない」みたいなのがすごく嫌。おすびつくばはそれがない。
- ・ 学校に行かないと体育しないけど、体を動かすのは好き。もっとスポーツをやりたい。

- ・ スポーツの時間は、言葉がなくても人と関われるのがいいと思う。「関わって楽しい」みたいな体験ができる。
 - ・ 農園に行ったことがめちゃめちゃ楽しかった。みんなで自然と触れ合うとか、おいしいもの作って食べたりとか、共同作業っていうか、そういうのは割と好きだった。
 - ・ 調理をする時間が欲しい。スポーツや絵画造形のような形で。
- 【註】リヴォルヴでは野菜などを育て、調理し、食べることを大切にしてきたが、事業期間中はコロナ禍のためこれらの活動は制限せざるを得なかった。
- ・ （学校と違って）みんなで食べる感があって、楽しい人と一緒に食べるから、お昼の時間が楽しい。
 - ・ （フリータイムで）遊ぶときに外に行けるのが良い。
 - ・ （おすびつくばに）いられる時間がもっと長いといい。

（３）その他

- ・ 同じ境遇の人が来てる安心感がある。
- ・ 来やすい、休みやすいという点で、来るハードルが低い。久しぶりに学校へ行くと無駄に心配されるのは、「学校に行く」ということが前提にあるから。おすびつくばでは、「他の子と前提が同じ」であることがハードル低め。
- ・ いろんな年代の人、いろんな価値観と出会える。
- ・ 第３の学びの場としての役割。客観的に自分を見られる。
- ・ 朝早すぎないのがいい。
- ・ 自由だけど、自由過ぎる訳でもない。
- ・ スタッフが急に入れ替わったりしないことが良かった。不安定な時期に、せっかく信頼して話そうって思ったとき、言えなかった本心をその人にはというタイミングで話ができないと、その後 響いてくると思う。
- ・ スタッフの数を増やしてほしい。
- ・ お昼を食べる時間がないスタッフがいたりして大変そう。疲れてないかなと思う。
- ・ 小学生の子がすぐに話しかけてくるのが嫌。
- ・ 新入生がたくさん入ってくるようになって、ついていけないこともあった。
- ・ 特に小学生の人数が増えて、話したいことが話しにくくなった気はする。
- ・ 高校生までいられるようにしてほしい。

<ヒアリング所感>

在籍期間の長い子から声がけをし、10名にヒアリングをした。子どもたちの中には「面談のようなかしこまった場は苦手」という子もあり、時間が限られた中、どれだけその思いを受け止められたかは疑問が残る。時間をかけて寄り添うとともに、普段の何気ない会話の中でもよりよく聞き、記録することの大切さを再認識した。

また今回は話しやすさを優先し子どもたちにインタビュアーを選んでもらったが、聞き手によって内容の深みに違いもあったように思われる。客観性という点からも、万が一、子どもたちがスタッフに不信を抱いたときにもその声の受け止め手となるアドボケートの配置も必要だと考えた。

とは言え、このような機会があったことで、スタッフが初めて聞くことのできた言葉も多くあった。また、子どもたちがその成長を振り返り、言葉を紡ぐ様子にも驚かされた。聴くことは一人ひとりが自身を見つめることにつながり、それが共に場をつくる存在としての子どもの成長を促すことも感じており、子どもの声を聴くことの重要性を認識した。

令和２・３年度むすびつくば事業 自己評価付属資料「保護者ヒアリング調査」

<目的>

認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所による「むすびつくば」は、つくば市との「協働実証事業」として令和２年１０月より開設されたが、当事者の声が反映された事業評価が実施されていないことが課題となっていた。

本ヒアリング調査では、むすびつくばの良いところ、改善点等をヒアリングしながら、保護者の皆さんが感じているむすびつくばの実態、ニーズの把握に努めることを目的とする。

<方法>

日程：令和４年６月２６日(日)13時～17時、令和４年６月２８日(火)11時～17時 各４０分程度

対象：令和２・３年度にむすびつくばに通っていた児童生徒の保護者８名

場所：６月２６日(日)：むすびつくば教室応接室、６月２８日(火)：スタートアップパーク会議室
インタビューア：

常磐大学人間科学部教育学科助教 小山田建太

【茨城県水戸生涯学習センター 課題解決チャレンジ事業 委員長】

茨城県水戸生涯学習センターの「課題解決チャレンジ事業」の委員長として、不登校・ひきこもりの状態にある子どもの支援に携われる支援者の育成や、支援のためのネットワーク構築に取り組んでいる。具体的な活動としては、不登校・ひきこもり支援を学ぶ研修会の開催、また県内で不登校・ひきこもり支援をおこなう民間教育施設との交流会を実施した。現在は、希望者による同施設でのボランティア活動を推進中である。

インタビューア：

【6/26（日）】むすびつくば応接室

協力者	令和４（２０２２）年度 子どもの状況	子どもの むすびつくば利用歴	
		２０２０年度	２０２１年度
Aさん	通信制高校２年生男子 ※卒所生	中３	-
Bさん	火金コース週２日女子 フリースペース利用	-	小２
Cさん	火金コース週２日女子 フリースペース利用	小６	中１
Dさん	私立大学２年生男子 ※卒所生	高３	-

【6/28（火）】スタートアップパーク第４会議室

協力者	令和４（２０２２）年度 子どもの状況	子どもの むすびつくば利用歴	
		２０２０年度	２０２１年度
Eさん	全日制高校１年生男子 ※卒所生	中２	中３
Fさん	火金コース週２日女子 フリースペース利用	中１	中２
Gさん	月木コース週半日男子 フリースペース利用	小６	中１
Hさん	全日制高校２年生女子 ※卒所生	中３	-

■ ヒアリング項目

I. フェイスシート

- ① 利用開始時と現在のお子さんの年齢
- ② お子さんの性別、現状、利用状況を教えてください。
- ③ おすびつくばに通い始めた経緯を教えてください。

II. おすびつくばについて

- ④ お子さんは、おすびつくば で良い時間を過ごせている(た)と思いますか？
- ⑤ おすびつくばに通うようになってから、お子さんの家庭での様子に変化はありましたか？
- ⑥ 保護者の方から見て、おすびつくば のどんなところが良いと思いますか？
- ⑦ 今後おすびつくばが子どもたちにとってどのような場であれば良いと思いますか？
また、どのような支援を期待しますか？
- ⑧ 今後、おすびつくば で改善してほしいと思うところがあれば教えてください。
- ⑨ その他、伝えておきたいことがあれば教えてください。

保護者ヒアリング調査の結果まとめ

文責：常磐大学人間科学部教育学科助教 小山田建太

保護者ヒアリング調査の結果を、以下の諸観点として整理した。なお、詳細は「保護者ヒアリング調査結果 詳細資料」を参照のこと。

1. 保護者が感じる、むすびつくばの良さ

保護者が感じるむすびつくばの良さとしては、以下の点が挙げられている。

(1) 子ども一人ひとりの学習の仕方を認めてくれる

全ての保護者は、子どもが学校での画一的な学習方法には不安があることを語るが、一方でむすびつくばでは、時間割が必ずしも「分単位」でないことや、子どもを縛る過ごし方の決まりがないこと、教科書でなく自身の関心のある題材や教材での学習も認められること、事前に持ち物の準備をしなくてよいこと、来所を強制されないことなどの工夫によって、「その子の立場に立った」学習ができることが高く評価されている。特にむすびつくばには書字に不安を覚える子どもが多く通所しているが、スタッフは「書いて勉強するだけが勉強じゃないから、勉強には色々なやり方があるんだから、書いて覚えなくてもいいんだよ」などといったメッセージを伝えてくれるという。そしてこのような働きかけによって、「自分の学習の仕方を認めてもらえてやっていく」という実感を得ることができ、ひいてはこのように「自分を認めてくれる人のことは認められるみたいなどころは絶対あると思う」とも付言される。

(2) 専門性の高い学習指導や、教育理念の魅力

各専門の教科の先生のもとで学習を手厚くサポートしてもらえる点についても、複数の保護者が期待するニーズとなっている。例えばEさんは、学習障害などの子どもに対しても学習指導を通して一人ひとりに応じた不登校支援に取り組んできたリヴォルヴ学校教育研究所の教育理念やノウハウに強く惹かれていることを語る。またDさんは、そのような学習指導によって学校の学習内容を修了できたことが、子どもの自信になっていたと述べている。

(3) 勉強が「ちらつく環境」、「遊び勉強」

子どもがスタッフと話すことやフリースペースに通うことを特に楽しんでいる場合にも、むすびつくばが勉強が「ちらつく環境」であることに保護者は安心感を覚えている。またBさんの子どもは、スタッフが子どもの好奇心にもとづく「面白い教え方をしてくれ」るために、むすびつくばでの学習を「遊び勉強」として形容しており、その「遊び勉強がすごく大好き」だと語っているという。

(4) 気持ちや意見を受け止めてもらえる

多くの保護者が、子どもがスタッフとのコミュニケーションが好きであることを指摘しており、スタッフが親にも受け止め切れない子どもの興味・関心の話で「全部の神経で聞いてくれる」のだという。

またむすびつくばのスタッフには、子どもが「嫌」だと思ふ気持ちを察してもらい、そしてその「嫌」だという意見を尊重してもらえるために、子どもや保護者は強い信頼感や安心感を覚えているという。このようにむすびつくばのスタッフは、子どもにスタッフ（や保護者）の願望を決して押し付けることなく、子ども一人ひとりがどのような気持ちや意見であるかを丁寧に把握し、また彼らの反応を待つ姿勢が見られるとされる。

なおこのようなスタッフの優しさが、「上部だけ」のものでないことについても複数言及されている。それぞれの保護者の目から見た子どもが、人間不信になっていることや、心が傷ついていること、勉強が好きでないこと、あるいは余計なお世かけいかけられることが嫌いであることなどが推察されるなかで、スタッフは子どもに対する「高圧的な関わり」や「大人の一方的な何かを押し付けるような関わり」を避け、対等に子どもとかかわり合おうとしているように感じられるという。この点について B さんの子どもは、「学校は先生が一方的に 100 パーセント喋って黙って聞いていないといけないんだけど、むすびだと大人と子どもの会話量が半分ずつなんだ」と話してくれるという。

(5) 人間関係のかかわりを学べる

人間関係の構築に子どもの課題があると感じる保護者にとっても、「誰かと関わる」機会があるむすびつくばの場が好意的に捉えられている。また D さんは、「フリータイム」を「ソーシャルワーク」の時間としてスタッフが営んでくれたことによって、子どもの「自分と人と先生との関わりとか、そういうのを育ててもらった」と感じている。

(6) 子どもの成長や変化をフィードバックしてくれる

むすびつくばで見られた子どもの成長の姿をスタッフが保護者にフィードバックしてくれることも、「改めてその子の良さっていうのを認識できる」ため、「すごくいいな」と語られている。

(7) 行政や学校との連携

むすびつくばが教育委員会や学校との連携に意欲的である姿勢も評価されている。そしてこのような連携・協働のなかで、「学校の教え方」に対して「他の学び方もあるよねっていうので、こう認め合って、こう繋がっていけると」良いとする見解も示されている。

2. 子どもの変化

むすびつくばに通うなかでの子どもの変化として、家族でご飯を食べられるようになった、家族以外の大人との会話に慣れてきた、表情が豊かになった、周囲の人に気を遣えるようになった、身長が伸びた、精神状態が安定した、生活習慣が改善した、など様々な観点が言及されているが、以下ではむすびつくばの教育活動全般に大きな意味を持つと考えられる観点を抽出したい。

(1) 勉強することが楽しくなった

学校の勉強に苦手意識がありつつも、むすびつくばでの時間を通して勉強することそのものが楽しくなったとする語りも示されている。Hさんは、むすびつくばの先生が自分の専門分野の内容を子どもに「『本当にこれ面白いんだ』と思ってやってることを子ども向けに（略）投げかけてくる」ために、子どもも「その先生が面白そうにやってるから引きこまれちゃう」のだと指摘する。したがってHさんの子どもは、「勉強ってものがどういうことなのかっていう、考え方が変わ」って、「勉強することが楽しくなった」のだという。重ねてHさんはこのような子どもとスタッフとの関係性を、「昔の徒弟制度」とも表現している。そしてBさんも、子どもが「不登校になってすぐは勉強とか教科書も本当に全く見たくなかったのが、今は家で少し教えようとした時に受け止めるようになってきた」と感じている。

(2) 自信が出た、主体的な自己表現ができるようになった

Bさんは、家庭での子どもが「自信が出たり、強気になってきた」などの主体的な自己表現ができるようになってきた変化を感じ、また同じタイミングでむすびつくばのスタッフからも同様の話をされたという。これまでBさんの子どもは、学校で困っていても先生に働きかけることができなかったというが、現在は「家庭とは違う顔を見せないで、むすびでも同じ顔が見せられてるんだなと」その変化を肯定的に捉えている。

(3) 先の見通しを持てるようになった

Fさんは、むすびつくばに通う以前の子どもは「生活全般がネガティブ」だったというが、むすびつくばに通うなかで「こう心持ちが明るくなれるんだなっていうのは、もう見てて分かった」と述べる。そして現在のFさんの子どもは、「生きていても悪くないかも」と自身の「先の見通し」を持ち始めるようになったといい、生活リズムも徐々に回復しつつある。

3. 親の意識の変化

上記のような子どもの変化にかかわって、親自身の意識も変化したことが語られている。Fさんの夫は、以前は学校に通わない子どもの将来を案じていたが、夫婦間での話し合いや、子どもが「時間を追うごとに（略）良くなっていく」姿を見るなかで、「今はこうするしかないかなっていう風に、意識が」変わっていったという。またAさんは、小野村さんとの対話のなかで「みんなと同じことをやらなくちゃいけない」などといった価値観を相対化することができ、色んな「人生があってもいいのかなみたいな感じに変えていくことができた」と語る。したがって今では、子どもへの接し方にも「余裕が持てるようになった」と感じている。

4. 今後のむすびつくばに対する要望や期待

要望として、学習のために個室を用意してほしい、あらゆる教科に対応できるスタッフを常時揃えてほしい、少人数学習により対応できるようにしてほしい、開所日をもう少し増やしてほしい、保護者同士のコミュニケーションの場がほしい、といった意見が挙げられている。またその他、課題性が高いと捉えられる要望の観点を、以下にまとめたい。

(1) 子ども同士の触れ合いの場

多くの保護者に共通する要望としては、子ども同士の触れ合いの機会を増やしてほしいということがある。多くの保護者は子どもとスタッフとの密な関係性を評価する一方で、子ども同士がかかわり合う場が乏しいと捉えている。この点についてCさんは、子どもがむすびつくばでスタッフからの様々なサポートを受けながら現在「とても心地良く過ごしていると思って」いるものの、それでも「やっぱりちょっと不愉快な場面とあって、やっぱ、生きていくのに絶対に必要」で「避けて通れない」と考えるために、「不愉快」なことを「みんなで解決していく」ような経験が得られればと考えている。加えてこのような「不愉快」な経験を用意する際には、「何の解決策もないところでそういうことになっちゃうと」大きな問題に発展してしまうために、「そういう解決策がちゃんとある」と感じられるむすびつくばの場で、「そういう場面」も「もう少し用意されるといいんじゃないかな」と述べている。重ねてBさんは、子どもからも「信頼感」のあるむすびつくばの場で、「色々なトラブルも経験しながら人間関係を深めていく」ことを期待している。

なお上記の点に関連して、文化祭や修学旅行といった「普通の小学校中学校で体験できるような」活動を増やしてほしいという要望も挙げられている。

(2) 活動を持続的に維持させられる体制作りについて

全ての保護者が今後もむすびつくばの活動の継続を望んでいるが、保護者からはむすびつくば設立以降で「前に比べたら忙しそう」だとする実感や、スタッフのワークライフバランスを心配する声などが示されている。そして今後の要望として多くの保護者が、活動を持続的に維持できる体制作りを求めている。

その体制作りの具体例としては、今後の専門性を有するスタッフの育成や、学年や人数に対応できるスタッフの増員などが挙げられる。なおこのような問題の背景には、むすびつくば以降で通所する子どもの数が増大したことが考えられる。

(3) 保護者の多様な期待と、むすびつくばの立ち位置について

公的な事業となったこともあり、多様な保護者を受け入れることとなったため、保護者のニーズが多様化していることについても言及されている（例えば、学習の時間を増やしてほしい、遊びの時間を増やしてほしい、など）。またこの状態では声の強い保護者の期待が反映され過ぎてしまう懸念も生じるために、むすびつくばには「『うちはこのところですよ』っていう支援の仕方」や「カラー」を明示してほしいとする語りも確認される。

前述の通り、多様な子どもたちへの学習指導に強みを持つリヴォルヴ学校教育研究所の教育理念に惹かれる保護者が多く存在する。公的事業として営まれる教育支援の場はあらゆる保護者のニーズにも十分に応答する必要があり、公的事業としてのむすびつくばの立ち位置が問われている。

協働実証事業 事業者自己評価シート

事業名 つくば市不登校児童生徒学習支援事業

事業(評価対象)期間 令和2年(2020年)10月1日から令和4年(2022年)3月31日

記載団体 つくば市

※ 評価点(5段階)の基準

- 5点:十分に達成できた
- 4点:概ね達成できた
- 3点:達成できた部分もあるが、課題も多く残った
- 2点:一部達成できたが、さらなる取組を要する
- 1点:達成できなかった

1 甲(つくば市)の役割

仕様書の内容

- ア 施設の提供
- イ 実証に要する経費の支援

① 施設管理及び経費の支援は適正に行ったか。

3

・ガラス修繕や駐車場の除草など、施設管理を適正に行うことができた。

・つくば市では令和2年度に実施した協働事業者の公募要領において事業内容や事業費の限度額を示し、事業者1者のみが公募に参加した。事業開始後、事業者からは特に人件費の積算について、金額が足りていないとの意見があった。

2 事業の周知

仕様書の内容

- ・甲乙は、開設後の通所促進及び地域の理解・協力につながるよう、広報・周知活動を行うものとする。

② どのように事業の周知活動を行ったか。さらに周知を図るために工夫できることがあるとしたら、どのようなことか。

2

・令和2年10月の協働事業開始時に、市内全小中学校及び義務教育学校に対し、むすびつくばの事業概要を配付して周知した。また、各学校に対しては、不登校児童生徒の保護者に事業概要を周知するよう依頼した。

・つくば市として、利用者向けのチラシやホームページ等の作成を行っていないため、つくば市から保護者への周知は不足していた。

3 入所の申込

仕様書の内容

- ・入所については、甲乙で協議の上、判断し、入所が決定し次第、すみやかに入所承諾通知書（様式第2号）を保護者及び在籍校に通知する。

③ 規定どおりの手続きができたか。また、手続きで改善すべき点はあったか。

3

- ・事業者からは速やかに入所承諾通知書が提出された。
- ・事業内容や入所者について、つくば市と在籍校間の連携が取れていれば、事業者と在籍校間での情報連携もスムーズにできたと思われる。

4 連絡会議

仕様書の内容

- ・甲は、乙と教育相談センターとの事例共有や連携強化を促進するため、連絡会議を開催する。

④ 連絡会議は開催したか。また、会議内容や開催方法について、良かった点や、改善すべき点はあったか。

2

- ・令和3年9月に教育相談センターにおいて会議を開催し、お互いの事業内容について情報共有を行った。しかし、1回しか行うことができず、事例や課題の共有について連携が不十分であった。

5 その他

- ・日頃のコミュニケーションが取れておらず、協働事業の運営に対する要望や課題等に関して、事業者との連携が不十分であった。